

藤野海南曰。尊翁之偉識卓節如此。宜吾兄之志操見解。並超絕于今世書生之表也。

又曰。此文直叙實際。不誇張。不頌揚。而慶祥可賀之狀。藹然見于楮表。真文如個。頗難爲。

小山春山曰。叙事周密。筆氣敦樸。得獻壽尊長之體。

鹽谷青山曰。首尾以議論爲起結。而中間敘事。述其實歷之概。作法完密。甚得壽序之體。

失題

舊作

易水生

奇才未見進經綸。社稷空聞待策頻。王猛當前尙相失。桓溫到底不知人。

松陰神祠

舊作

天荒地老幾興亡。慨世悲歌付杳茫。一片英魂呼不返。松陰祠上月蒼涼。

梧園先生曰  
詩趣老蒼

悼岡松鑾谷先生

稼堂陳人

文章幾度細加朱。提誨諄々愈我愚。今也先生窅然逝。帝都無復一醇儒。

山田德二書。自太孤山至。賦此以寄。

海外威加恰若神。只看感極淚霑巾。殊因得汝數行字。并領太孤萬里春。

海戰

親友會員

秋月胤繼

艨艟壓海戰方開。巨彈蹴濤震百雷。瞥見大魚衝鐵艦。轟然無一不沈摧。

稼堂先生曰。使賴翁見之。驚倒果如何。呵々

早春閑望

遼山靄々淡於烟。野色入春氣自暄。一望風光圖畫似。牧童歸犢夕陽邊。

稼堂先生曰 詩亦一幅圖畫

春夜聞雨

硯友會員 水月哲英

春色方三月。夜窓到雨聲。夢隨飛蝶去。愁與落花生。

春日閑望

李白桃紅酉又東。香飄簾外酒旗風。隔林牛吼春寥寂。不識何邊有牧童。  
稼堂先生曰 郊垧之趣可掬

水仙花

日夕吐芳花影新。黃葩冷蕊似佳人。水晶宮裏君王寵。何羨艷粧紅粉身。

春夜聞雨

硯友會員 杉山富橈

春風春雨落花村。入夜檐端點滴繁。愁緒綿々向誰語。殘灯明滅犬吠門。

病中口占

無端病客負青春。床上空題宵又晨。遙想滿城花若錦。願將殘馥付斯身。

春夜偶成

正是清明節。故人千里違。思君眠不就。萬恨欲沾衣。

早春閑望

久芳準平

班々擁雪短牆隈。屋角纔開一染梅。更見江東春意動。阿蘇山色帶煙來。

春夜聞雨

孤燈影暗向深更。春雨蕭々寒意生。檐滴破來半窓夢。無端惹起故園情。

奉謁某翁墓

翁元塵表客翰墨了其生。三尺存碑石百年傳姓名。焚香拜靈位。灌酒弔墳塋。落木空山下。日斜禽語明。

梧園先生曰 前聯最妙

經舊寓

閑行乘雨霽。來過舊家園。斷石留荒域。老蘿纏廢垣。軒前梅繞子。屋後竹生孫。三徑無人灌。猶看松菊存。

梅窓睡起

倦讀拋書日暮天。曲肱闌臥老梅前。不知新月上林梢。身在橫斜影裏眠。

水仙花

硯友會員 飯田突兀

冷光冰潔影迷波。仙夢漸醒待素娥。玉葩金蕊芳一點。惱人艷色不須多。

春夜聞雨

思母思兄又思弟。思臻先考涕沾胸。羈窓獨臥聞春雨。愁緒濃於點滴濃。

五家道中雜詩

(舊作)

白雲山人

一抹白雲仙氣清。山谿幽處宿柴荆。奔潭搖沈夢難穩。誤認水聲爲雨聲。  
宿早楠  
仙蹊遠上白雲隈。幽谷無人滑綠苔。既覺此邊風土異。桃櫻梅樹一時開。發早楠南五家

下、谷、恰、如、沈、地、底、上、山、更、似、踏、雲、梯、青、天、今、日、唯、咫、尺、吟、帽、高、摩、日、月、曉、五、家、山、中

梧園先生曰 言得。

春夜聞雨

硯友會員 怡笑迂人

春雨聲冷吟骨櫻。書窓夜靜客心孤。何知萬里遠征士。霜滿鐵衣冰滿鬚。

早春偶成

雪和凍雨壓東籬。柳帶餘寒未展眉。怪底春光至郊外。一聲隔竹聽黃鸝。

## 批評

中津君の『國民の資格』を読みて

推移生

中津三省君足下、已を知る者をば知己と申候、天下知己少し、人生の樂多きが中よ、知己を得るより樂きはあしと信じ候。足下と交を結びしより、早や數年を経候。常よ足下をば知己とし敬ひ、僕不肖また窺かに、足下の知己を以て自ら任じ候。不幸にも、未だ龍南誌上足下の高説を聞くを得ず、甚以て憾と致し候ひしに、今や足下時事に感せられ、「國民の資格」一篇を草せらる。茲に始めて、足下の高見に接するを得、僕の欣喜何ものかこれに過ぎ候べき。通讀數回、解する能はず候へども、而も彷彿として、僕の説に合するものあるを見るあとを得て、足下を信するの情愈々厚きを覺ゑ候。僕の喜極りあく候。由來龍南誌上、法科生諸氏の文甚だ乏しく、安河内君去られ候以來、未だ嘗て此種の文に接し候はず。獨り小原君在りといへども、幽玄神妙甚だ俗耳に入り難く候。夫れ文の類また多し、華ありて果あきをば虛文と申し、玄を談じて實あきをば空文と申し、纖弱にして氣力なきをば軟文と申し、浮華に